

TAKARABUNE 2023 「夢のかけらを くもにまく」@MOMAS レポート

TAKARABUNE 2023が3月15日から19日までの5日間、埼玉県立近代美術館 地階一般展示室1で開催されました。昨年までとは異なり、コロナ禍対策も緩和された今年。会場の雰囲気もさらに明るくなったように感じました。今年のTAKARABUNE 2023のテーマは「夢のかけらを くもにまく」。昨年耕した雲に今年は種を蒔く。今年もたくさんの方達の様々な種類の種(作品)が展示されていました。

特に印象に残ったのは、新しい試みでもある「アートの素・パントリー」というワークショップです。「自由創造ワークショップ」という位置付けで、オープンアトリエではSMFのメンバーでもある4人のアートの素・マイスター(造形作家の加藤典子さん、和紙を使った作品を展開するみやうかさん、金工家の矢花俊樹さん、アーティストのSYUTAさん)による様々なワーク

ショップが開催されました。各回のワークショップが開催される際、オープンアトリエはその都度違う雰囲気が感じられ新鮮でした。参加者の方はいろいろな素材をもとに作品を作っていました。

そしてTAKARABUNE 2023の企画として、興味深かったのが「人力ジュークボックス」というパフォーマンスでした。観客のリクエストを元に曲をその場で披露してくれます。美術館にいながらオシャレなカフェ行った気分も味わえ、なんだか不思議な空間でした。ギター生演奏で素敵な歌声がライブで聴けて会場もとても盛り上がっていました。

最終日には、様々なダンスパフォーマンスが開催され、会場の空間もそれまでとは違う輝き

を帯びているように見えました。雰囲気ががらりと違っていました。蒼浩人さん、カワムラアツノリさん・松元日奈子さんによるダンスパフォーマンスは盛況でした。静と動を所作で表現されるアート空間は、独特な雰囲気がありました。

とある作品では子供達が、暗闇の中で映る自分たちの姿を楽しんでいました。作品に参加出来る体験。これも作品が身近に感じられる、TAKARABUNE 2023の魅力ではないかと感じました。

アートの空間に様々な企画が行われるとその時々によって会場の雰囲気が様変わりするように感じられるのはまさにこの企画の魅力を感じる瞬間でした。少しずつですが、来年は今回の展示で蒔かれた種たちがどんな風に成長するのか、今からとても楽しみです。

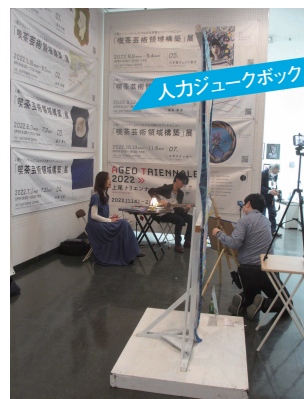
夢の
かけら
を
くも
に
ま
く



加藤典子さん



カワムラアツノリさん・松元日奈子さん



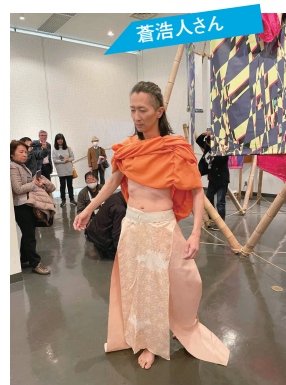
人力ジュークボックス



矢花俊樹さん



SYUTAさん



蒼浩人さん



みやうかさん

